

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大久保東小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかし、全体として国語では、「文中の主語と述語の関係を理解すること」に課題がみられた。教科横断的な視点で、主語と述語を意識して文を読んだり書いたりさせることを繰り返し取り組んで定着を図る。R6年度の全国学力・学習状況調査等で検証したい。
思考・判断・表現	5・6年の国語では、「話すこと・聞くこと」の領域に課題がみられた。話す際には、授業のみでなく普段の生活の中で話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別することを意識させる。また話を聞く際には、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えを比較しながら、自分の考えをまとめる活動を取り入れていきたい。
主体的に学習に取り組む態度	5・6年生の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目で、肯定的な回答の割合が約90%だった。1年生から4年生においても、既習事項を授業の導入に取り入れて新たな課題に活用できるように工夫したり、学習到達度に合った課題を選択できるようにしたり具体物を用いたりして、児童の主体的に学習に取り組む態度を育成していきたい。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語・算数の「知識・技能」において3pt以上向上させる。	⇒ 児童の学習進度や学習到達度等の把握に努め、個別最適な学びを支援する。電子ドリル等を活用し、漢字や基本的な計算等反復、習熟する時間を設定する。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語・算数の「思考・判断・表現」において3pt以上向上させる。	⇒ 各教科で目的を明確にした言語活動を設定する。自分の考えの根拠を表現する時間を確保する。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を85%以上にする。	⇒ 児童が必要感を感じ、自ら課題を解決したいという意欲を高めるために、授業の導入を工夫する。授業の終末に振り返りの時間を設定することで、学びの連続性を図る。

<小6・中3> (4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語「知識・技能」において、R4年度の調査より小3+4.6pt、小4+4.6pt、小5-0.1pt、小6+0.2ptであった。R5年度さいたま市学習状況調査の算数「知識・技能」において、R4年度の調査より小3+3.4pt、小4+3.1pt、小5+1.5pt、小6+3.2ptであった。	B
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の国語「思考・判断・表現」において、R4年度の調査より小3+1.1pt、小4+1.5pt、小5+2.5pt、小6-0.4ptであった。R5年度さいたま市学習状況調査の算数「思考・判断・表現」において、R4年度の調査より小3+1.3pt、小4+1.5pt、小5±0pt、小6+0.1ptであった。	B
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、小5では88.7%であり、小6では92.0%で目標を達成することができた。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語-3pt、算数-4ptであった。算数の「図形」領域において課題がみられた。正三角形の意味や性質を活用する問題での誤答や無解答が多いことから、筋道を立てて考え実物进行操作して確認する活動を取り入れた指導を行う。
思考・判断・表現	国語の「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き方を工夫する」問題において、課題がみられた。引用する際の目的や自分の考えを明確にするという点を繰り返し指導して、日頃から意識させることで「文の中から必要な語句を抜き出して、自分の表現に取り入れて書く力」を身に付けさせる。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は90%で目標値を上回った。今後子どもが主体的に学ぶ支援を継続していくとともに、「自分で考える」ことの質を向上させられるよう授業改善に努める。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	R5年度さいたま市学習状況調査において、R4年度自校の調査結果と比較し、国語+2.9pt、算数+2.9ptであった。しかし国語においては、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「読むこと」の領域に課題がある。算数においては、「数と計算」の領域について課題がある。	小4	R5年度さいたま市学習状況調査において、R4年度自校の調査結果と比較し、国語+1.8pt、算数+2.0ptであった。しかし国語においては、「言葉の特長や使い方に関する事項」や「読むこと」の領域に課題がある。算数においては、「変化と関係」の領域に課題がある。
小5	R5年度さいたま市学習状況調査において、R4年度自校の調査結果と比較し、国語+2.2pt、算数+5.2ptであった。しかし国語においては、「話すこと・聞くこと」の領域に課題がある。算数においては、「図形」の領域に課題がある。	小6	R5年度さいたま市学習状況調査において、R4年度自校の調査結果と比較し、国語-3.7pt、算数-2.9ptであった。国語においては、「話すこと・聞くこと」の領域に課題がある。また最後の大問での無回答率が約4%以上であり、問題が解き終えられなかった児童が多いと考えられる。算数においては、「図形」「データの活用」の領域において課題がある。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などの問題に繰り返し取り組ませるとともに、日常の事象を数理的に表現・処理する機会を授業の中で意図的に設定する。
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査では、「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか。」の質問項目で、肯定的な回答の割合を85%以上にする。	⇒ 既習事項を導入に取り入れ、新たな課題に活用できるように工夫する。児童に「できた」という経験を積ませるために、学習到達度に合った課題を選択できるようにする。